

各アクションプランの事業評価と実施状況

【評価の仕方】	a	特に成果が高い。
	b	H26年度事業計画を概ね達成している。
	c	H26年度事業計画が達成できなかった。未着手であった。

＜施策展開の方向Ⅰ わかる授業を推進し、自ら学ぶ力を身に付けさせる＞

基本施策 具体施策	事業番号	アクションプラン	担当所管	H26年度事業計画	H26年度事業実績（見込）	自己評価						H27年度（最終年度）事業計画	備考 ・自己評価が【a】や【c】になった理由、その対応 ・自己評価が上がった理由 ・事業が完了・統合等、大きな変化があった理由
						21	22	23	24	25	26		
(1) 1 新学習指導要領への確実な対応	(1)	千葉市版年間指導計画の作成	指導課	平成27年度改訂予定の小学校教科書に対応した年間指導計画を作成する。	平成27年度改訂予定の小学校教科書に対応した年間指導計画を作成した。	b	b	b	b	b	b	平成28年度改訂予定の中学校教科書に対応した年間指導計画を作成する予定である。	
	(2)	教育課程研究協議会等の実施	指導課	義務教育9年間を見通した学習・生活指導ならびに特別支援教育のさらなる推進を図るため、8月5日、6日の2日開催することを予定している。	平成25年度は、小・中同日に行っていたが、26年度は、8月5日（小・特別支援学校）、6日（中・特別支援学校）の2日間で開催した。小学校と中学校が互いの教育内容を理解し、義務教育9年間を見通した教育課程実施上の課題解明に向けて、充実した研究協議を展開した。	b	a	b	b	b	b	義務教育9年間を見通した学習・生活指導ならびに特別支援教育のさらなる推進を図るため、8月6日（小・特別支援学校）、7日（中・特別支援学校）の2日間で開催することを予定している。	
(1) 2 確かな学力の育成に向けた「わかる授業」の推進	(3)	学力状況調査の実施と活用	指導課	「全国学力・学習状況調査」（悉皆調査／対象学年：小学校6年生、中学校3年生／調査教科：国語、算数・数学）を実施する。 「千葉市学力状況調査」（対象学年：小学校3年、5年、中学校2年／調査教科：国語、社会、算数・数学、理科、英語〈中学校のみ〉）を実施する。 意識調査の状況と併せて分析し、その結果を生かし「わかる授業」の推進を図る。	「全国学力・学習状況調査」（悉皆調査／対象学年：小学校6年生、中学校3年生／調査教科：国語、算数・数学）を平成26年4月22日に実施した。 「千葉市学力状況調査」（対象学年：小学校3年、5年、中学校2年／調査教科：国語、社会、算数・数学、理科、英語〈中学校のみ〉）を平成27年2月下旬～3月中旬に実施した。 意識調査の状況と併せて分析し、その結果を生かし「わかる授業」の推進を図っていく。	b	b	b	b	b	b	「全国学力・学習状況調査」（悉皆調査／対象学年：小学校6年生、中学校3年生／調査教科：国語、算数・数学、理科）を平成27年4月21日実施する。 「千葉市学力状況調査」（対象学年：小学校3年、5年、中学校2年／調査教科：国語、社会、算数・数学、理科、英語〈中学校のみ〉）を平成28年2月下旬～3月中旬に実施する。 意識調査の状況と併せて分析し、その結果を生かし「わかる授業」の推進を図る。	
	(4)	指導指針「21世紀を拓く」の作成と活用	指導課	学校訪問などで得た各教科等の課題や学力の状況をまとめ、分析し、指導に生かす。	年度当初に全教職員（約4,700）へ配付し、随時活用を促すとともに、教育課程研究協議会（約1,600人参加）や教科等主任研修会（年2回）、学校計画訪問（30校）や学校要請訪問（延べ628回）等で活用し、指導・助言を行った。	b	b	b	b	b	b	学校訪問などで得た各教科等の課題や学力の状況をまとめ、分析し、指導に生かす。	
	(5)	少人数学習指導員の配置	教職員課	前年度に引き続き、きめ細かな指導を行うために、小・中学校併せて44人の少人数指導教員の配置を行う。	きめ細かな指導を行うために、小学校27校に延べ34人、中学校11校に延べ15人、特別支援学校1校に1人を少人数学習指導教員として配置した。	b	b	b	b	b	b	小学校3年生の36人以上の学級がある学校及び学年関係なく教育活動の支援が必要な学校に対してよりきめ細かな指導ができるよう少人数学習指導教員を配置する。	
	(7)	学校訪問指導の実施	指導課	「計画訪問」として、小学校20校、中学校10校、計30校を計画的に訪問予定。また、25年度と同様各学校からの要請に応じて学校訪問し、わかる授業の実現を目指す。	「計画訪問」として、小学校20校、中学校10校、計30校を計画的に訪問した。また、各学校からの要請に応じて学校訪問し、わかる授業の実現を目指した。	b	b	b	b	b	b	「計画訪問」として、小学校20校、中学校10校、計30校を計画的に訪問予定。また、26年度と同様各学校からの要請に応じて学校訪問し、わかる授業の実現を目指す。	
(1) 4 理数教育の充実（「理科、算数・数学好き」児童生徒の育成）	(12)	理科教育サポート事業	指導課	児童生徒の自然現象を探究する意欲や技能、自然科学や科学技術への関心を高める理科教育サポート事業を展開する。	理科教育サポーター32人を前期30校、後期に29校の小・中学校、合計59校に配置した。このことにより、児童生徒の自然現象を探究する意欲や技能、自然科学や科学技術への関心を高めた。	-	-	-	-	b	b	児童の自然現象を探究する意欲や技能、自然科学や科学技術への関心を高める理科教育サポート事業を展開する。 本年度は、理科教育サポーター31人を通年で小学校30校に配置する。	
	(13)	小中学校理科センターによる理科教育の振興	指導課	児童実験会（理科教育センター）、生徒学習会（千葉大学）、理科研究相談会（子ども交流館アリーナ）、植物観察会（県立中央博物館）、天文学習会（科学館）、生徒実験会（理科教育センター）等の理科教育センター行事を通して、児童生徒の科学への興味や関心を高める。	児童実験会に321人、生徒学習会に52人、理科研究相談会に291人、植物観察会に51人、天文学習会に297人、生徒実験会に27人の児童・生徒が参加した。また、県科学論文・科学工夫作品展では、本市の作品が高く評価された。	b	b	b	b	b	b	児童実験会（理科教育センター）、生徒学習会（千葉大学）、理科研究相談会（子ども交流館アリーナ）、植物観察会（県立中央博物館）、天文学習会（科学館）、児童実験会（小学校）、生徒実験会（理科教育センター）等の理科教育センター行事を通して、児童生徒の科学への興味や関心を高める。	
	(193)	千葉市未来の科学者育成プログラム	生涯学習振興課	科学に高い興味・関心をもつ中学生・高校生に対し、その能力を伸ばすための質の高い学習プログラムを提供し、受講生が市内の大学等研究機関や企業などが有する高度な科学技術を体験する。	(1) 期間 平成26年6月～平成27年1月 (2) 対象 市内在住・在学の中学2年生～高校生（64人） (3) 内容 開講式、講演、セミナー、実習、施設見学、成果発表会、閉講式 (4) コース・総合コース（12人） ・千葉大学連携コース（22人） ・医療系コース（11人） ・市立千葉高校SSHコース（19人）	-	-	-	-	a	a	(1) 期間 平成27年6月～28年1月 (2) 対象 市内在住・在学の中1～高3（65人程度） (3) 内容 開講式、講演、セミナー、実習、施設見学、成果発表会、閉講式 (4) コース 千葉大学連携、生命・医療、市立千葉高校SSH、探究支援コースの4コース設定。主体的な課題探究にも対応。 (5) 小学5・6年を対象のジュニア講座（2回）を新設する。	・市立千葉高校SSHコースを新設し、4コースとした。
	(194)	科学部活性化事業	生涯学習振興課	市内中学校の科学部が集まり、互いの活動内容を報告したり情報交換したり見直したりすることによって、中学校科学部が活性化できるようにする。	(1) 「サイエンスクラブアセンブリー」の開催 期日：10月18日（土） (2) 科学部員研究セミナーの開催 ・研究テーマ探し・電子サイコロ製作・ジャイロの学習 ・動物公園長講演会 (3) 科学部関係者を対象にした研修会や連絡会の開催	-	-	-	-	b	b	(1) 「サイエンスクラブアセンブリー（科学部交流発表会）」の開催 期日：10月17日（土） (2) 科学部員研究セミナーの開催 ・研究テーマ探し・電子工作・科学館との連携講座・講演会 (3) 科学部関係教員を対象にした研修会や連絡会の開催 (4) 科学館学校支援ボランティア対象研修会開催	
(2) 5 児童生徒による学習成果発表の充実	(16-1)	絵をかく会の開催	指導課	図工美術における絵画学習の成果を発表する場を設けることにより、表現力の育成を図る。優れた作品には賞状を与え表彰する。	各学校において、図画工作科、美術科における絵画学習の成果を発表する場を設け、表現力の育成を図った。学校規模の学級数に応じて、優れた作品には賞状を授与して表彰をした。	b	a	b	b	b	b	図画工作科、美術科における絵画学習の成果を発表する場を設けることにより、表現力の育成を図る。優れた作品には賞状を与え表彰する予定である。	
	(16-2)	総合展の開催	指導課	児童生徒の教科学習の成果を発表する場を設けることにより、思考力や表現力の育成を図る。第1部として科学部門を9月に市科学館で開催、第2部として図画工作・美術、家庭科・技術・家庭科、書写、特別支援教育部門を1月下旬に千葉市美術館で開催する予定である。	児童生徒の教科学習の成果を発表する場を設けることにより、思考力や表現力の育成を図った。第1部として科学部門を平成26年9月20日～23日にきぼーる・市科学館で開催し、約6000人が参観した。第2部として図画工作・美術、家庭科・技術・家庭科、書写、特別支援教育部門を1月24日～2月1日に千葉市美術館で開催し、約2,000人が参観した。	b	a	b	b	b	b	児童生徒の教科学習の成果を発表する場を設けることにより、思考力や表現力の育成を図る。第1部として科学部門を平成27年9月19日～23日にきぼーる・市科学館で開催、第2部として図画工作・美術、家庭科・技術・家庭科、書写、特別支援教育部門を1月下旬に千葉市美術館で開催する予定である。	

基本施策 具体施策	事業番号	アクションプラン	担当所管	H26年度事業計画	H26年度事業実績（見込）	自己評価						H27年度（最終年度）事業計画	備考 ・自己評価が【a】や【c】になった理由、その対応 ・自己評価が上がった理由 ・事業が完了・統合等、大きな変化があった理由
						21	22	23	24	25	26		
	(16-3)	英語発表会の開催	指導課	9月4日に、市立中学校など60校の生徒を対象に2つの会場で実施し、相互の学び合いの場とする。	9月4日に、市立中学校など60校の生徒を対象に2つの会場で実施した。	b	a	b	b	b	b	9月3日に、市立中学校など約60校の生徒を対象に2つの会場で実施し、相互の学び合いの場とする予定。	
	(16-4)	音楽発表会の開催	指導課	小学校は、中央区、若葉区、緑区で開催、中学校は市民会館で2日間開催する予定。また、特別支援学校・特別支援学級の参加を検討する。	小学校は、中央区、若葉区、緑区で開催、中学校は市民会館で2日間開催をした。中学校音楽発表会には市立養護学校も参加をした。	b	a	b	b	b	b	小学校は、美浜区、稲毛区、花見川区で開催する予定。中学校は千葉市文化交流プラザで3日間開催する。	
	(16-5)	文集・詩集「ともしび」、読書感想文集「本だな」の発行	指導課	全小・中学校から学習の成果である作文を推薦してもらい、優秀作品を文集として発行する。なお、以後の作文学習の教材として、文集の活用の推進を図る。	全小・中学校から学習の成果である作文や読書感想文を推薦してもらい、優秀作品を文集として発行した。また、以後の国語学習の教材として、文集の活用を促進した。	b	a	b	b	b	b	全小・中学校から学習の成果である作文や読書感想文を推薦してもらい、優秀作品を文集として発行する。なお、以後の国語学習の教材として、文集の活用の推進を図る。	
(2) 6 情報教育の 充実・推進	(17)	情報教育支援員の配置	教育センター	情報教育支援員による学校への支援を行い、教育情報ネットワークの安定運用と教育の情報化に努める。	情報教育支援員による学校への支援を行い、学習用のソフトウェアの活用、ならびに操作上のトラブルシューティング、現場でのプリンタやネットワーク機器の点検・補修を行うことにより、児童生徒・教職員への教育の情報化への支援・ネットワークの安定稼働が図られた。	b	b	b	b	b	b	情報教育支援員による学校への支援を行い、教育情報ネットワークの安定運用と教育の情報化に努める。	
	(18)	学校C I Oの育成	教育センター	学校C I Oを育成するため、学校の管理職及び担当者を対象とした研修を充実させ、教育の情報化を進める。	学校C I Oを育成するための情報セキュリティ講習、Cabinet取扱い責任者講習をそれぞれ管理職・取扱い責任者を対象に実施した。併せて教育メディア主任研修会等との内容等の連携を図ることによって、学校内で組織の活性化が図られた。	b	a	a	b	b	b	学校C I Oを育成するため、学校の管理職及び担当者を対象とした研修を充実させ、教育の情報化を進める。	
	(19)	学習コンテンツの開発と活用	教育センター	学習コンテンツの見直しを進めるとともに、各種研修会等とおして各学校での活用を促進する。	千葉市独自の学習コンテンツの見直しを図り、研修会・講座等において受講者に対して、活用を依頼した。また教職員向けの情報セキュリティ研修に関するコンテンツを開発してイントラネット上に公開した。	b	a	b	b	b	b	学習コンテンツの見直しを進めるとともに、各種研修会等とおして各学校での活用を促進する。	
	(20)	情報モラル教育の推進	教育センター	各種研修会をおとして、発達段階に応じた情報モラル教育の重要性について周知し、各学校の実態に応じた情報モラル教育の推進に努める。	教育メディア主任研修会において、情報モラル教育の重要性とポイントを示し各校で作成する情報教育指導計画に位置付け、情報セキュリティ研修・Cabinet取扱い責任者講習・専門講座等で周知し、学校の実態に応じた情報モラル教育の推進に努めた。	b	b	b	b	b	b	各種研修会をおとして、発達段階に応じた情報モラル教育の重要性について周知し、各学校の実態に応じた情報モラル教育の推進に努める。	
(2) 7 科学館・図書 館・博物館等の 活用	(21)	科学館を活用した授業の展開	生涯学習振興課・指導課	【生涯学習振興課】「団体利用の手引」に基づき、学校担当者への科学館利用説明会を実施し、事前学習キットの貸出を行い、利用促進を図る。 ・ワークシート学習 ・天文学習 ・実験工作学習 【指導課】フラネタリウムや展示、実験室を活用した学習等を児童生徒に提供し、利用促進を図る。	【生涯学習振興課】フラネタリウム投影機器を更新（10月）各小学校での風景で投影が可能な対応を開始。「団体利用の手引」に基づき、学校担当者への科学館利用説明会を実施し、事前学習キットの貸出を行い、利用促進を図った。 ・ワークシート学習 ・天文学習（学習投影検討委員会を開催し内容を検討） ・実験工作学習（学習キットを学校貸出し、中学校職場体験学習受入れ（35校）） 【指導課】天体や星座への興味関心を深めた。理科センター行事として天文学会集を実施し、市内小学校39校297人の児童が参加した。	b	b	b	b	b	b	【生涯学習振興課】各小学校での風景で投影が可能な対応を拡大。「団体利用の手引」に基づき、学校担当者への科学館利用説明会を実施し、事前学習キットの貸出を行い、利用促進を図る。 ・ワークシート学習 ・天文学習（学習投影検討委員会を開催し内容を検討） ・実験工作学習（学習キットを学校貸出し、中学校職場体験学習受入れ） 【指導課】フラネタリウムや展示、実験室を活用した学習等を児童生徒に提供し、利用促進を図る。	フラネタリウム投影システムの更新（10月）により、各小学校から見た星空の投影（校舎と星空が同時に映し出される仕組み）が可能となり、学校団体利用者の関心を高めた。
	(22)	図書館の活用推進	中央図書館	「千葉市子ども読書活動推進計画」に基づく各種事業を実施する。 調べ学習に活用できる図書館資料の整備を図ると同時に、子どもとその保護者、教職員等に対するレファレンスサービスの充実に努める。	「千葉市子ども読書活動推進計画」に基づく各種事業を実施した。 調べ学習に活用できる図書館資料を整備し、子どもとその保護者、教職員等に対するレファレンスサービスの充実に努めた。 来館でのブックトークの要望に応じて、小学4～6年生対象に、国語教科書単元に関連した本を紹介し、図書館利用の推進を図った。6回、延べ168人。	a	b	b	b	b	b	「千葉市子ども読書活動推進計画」に基づく各種事業を実施する。 調べ学習に活用できる図書館資料を整備し、子どもとその保護者、教職員等に対するレファレンスサービスの充実に努める。 科学の本を展示し、調べ学習の興味関心を高めて、図書館資料の利用促進を図る。	
	(23)	博物館等との連携	文化財課	各館が協力しあって、様々な事業展開を行い、学びへの動機付けと幅広い知識の取得を増進する。	加普利貝塚博物館では、施設の解説・火起こし体験、郷土博物館では、錫づくり講座、埋蔵文化財調査センターでは出前授業として、本物の土器等に児童生徒が直接触れる事業を展開した。 また、加普利貝塚博物館、郷土博物館、埋蔵文化財調査センターにおいて、夏休み期間中の子ども向け事業を実施した。 埋蔵文化財調査センターの出前授業を利用した児童・生徒数（延べ数）6,111人	b	b	b	b	b	b	b	小中学校では、博物館や埋蔵文化財調査センターと連携し、子どもたちが出土品や展示資料を解説付きで見たり触れたりすることを通じて、郷土教育の醸成を図る。
(2) 8 学校図書館機能 の整備・充実	(24)	学校図書館情報ネットワークシステムの整備推進	指導課・教育センター・中央図書館	各学校における図書資料並びに教育センター内の教育関係図書等のデータベース化を継続して行い、学校から図書検索が可能となるよう検討・協議を進めていく。	各学校の図書資料のデータベース化や公共図書館との連携において、先進的な取組を行っている地域を視察し、今後の学校図書館の整備推進について検討した。	指 教 a 中 c	b	b	b	b	b	各学校における図書資料のデータベース化や公共図書館との連携において、他県市の情報収集に努めながら、今後の学校図書館の整備推進について検討していく。	